未来へつなぐ友好の絆

―第25回松浦市青少年親善使節団―

8月5日から12日までの8日間、「松浦市青少年親善使節団」が姉妹都市であるオーストラリアのマッカイ市を訪問しました。

訪問したのは中高生11人と引率者2人。滞在中は、ホームステイや学校訪問などをとおしてマッカイ市民との交流を深めました。

①

②

③

青少年親善使節団のひとこと感想

（敬称略）

三木　亮太朗（佐世保西高校2年）

これまでただ好きで勉強してきた英語に価値を感じたこの夏は、自分にとって財産だと思います。この気持ちを忘れることなく、これからも自分の英語力を磨きたいと思います。

田代　萌李（御厨中学校3年）

この訪問でたくさんのことを感じ、考えさせられました。最初は不安でしたが、最後は笑顔で終わることができたので、挑戦して楽しむということは大切だと思いました。

髙尾　心音（御厨中学校2年）

特に驚いたことは、オーストラリアの人は、フレンドリーでとっても優しかったことです。小学校と高校を訪問した時もたくさん話しかけてくれたり、一緒にゲームをしたり、とっても楽しかったです。

田中　日菜（志佐中学校3年）

私は約700枚の写真を撮りました。そこには、たくさんの思い出がつまっています。何年か後に皆で集まって、これらの写真を見て、いろいろ語り合いたいです。

松田　衣央（志佐中学校2年）

私は、ホストファミリーと話す時は、できるだけジェスチャーを使うようにしました。すると伝わりやすくなりました。日本ではジェスチャーを使わなくても言いたいことが通じるので、ジェスチャーの大切さを学ぶことができました。

中川　美結（志佐中学校2年）

私はホームステイで経験したことを無駄にしないように、これからの英語の授業では会話に使えそうな英文を重視してたくさん音読をしたり、書いたりして身に付けていこうと思います。

吉福　端月（志佐中学校2年）

一生忘れられない経験となりました。これらをいろいろな場面で生かしていきたいと思います。そして、オーストラリアに行く機会があったら、恩返しをしたいなと思いました。

渡邊　璃乃（志佐中学校2年）

今回、行くことができて、本当に良かったと思います。たくさんのことを経験し、学ぶことができました。経験したことを生かし、これからもいろいろなことに挑戦していきたいです。機会があれば、またマッカイ市へ行きたいです。

⑥ブッシュダンス・パーティでソーラン節を披露
⑦誕生日を祝ってもらった髙尾さん
⑧ノース・マッカイ・ハイスクール訪問
⑨ホストファミリーと一緒に
⑩ウィリアムソン市長と記念撮影

①マッカイ空港到着
②「松浦通り」で記念撮影
③ブッシュダンス・パーティでカエルのダンスを披露
④ブッシュダンス・パーティ
⑤ノース・マッカイ小学校訪問

北嶋　結衣（ゆい）（今福中学校3年）

学校訪問では、マッカイ市の子どもたちと一緒に遊んだり、授業を受けたりしました。日本とは違ってとても自由だなぁと思いました。そして、日本語が上手で驚きました。

田中　花歩（かほ）（今福中学校3年）

ホストファミリーと話すことはとても楽しかったけど、時々英語で伝えることができないことがあり、とてももどかしかったです。だから英語を完璧に話せるようになって、もう一度マッカイ市へ行きたいと思いました。

福浦　悠（はるか）（今福中学校2年）

このホームステイ一週間だけで、たくさんの人と交流し、オーストラリアと日本の文化の違いについても学ぶことができました。大人になったら、もう一度チャレンジしてみたいです。

マッカイ市との交流のあゆみ

マッカイ市は、オーストラリアのクイーンズランド州の北東部に位置しています。

交流のきっかけは石炭。松浦市には国内でも有数の規模をほこる石炭火力発電所があり、発電所では輸入した石炭を使って電気をつくっています。この石炭の多くが、当時マッカイ市の近郊の港（現在はマッカイ市内）から運び出されたこと、当時のマッカイ市と松浦市の人口が同規模だったこと、また両市とも海岸線に位置するなど地理的条件が似ていたことから、平成元年に姉妹都市となり、交流が始まりました。

マッカイ市との交流は、松浦市国際親善協会を中心に市民主体となって推進されています。今回の松浦市青少年親善使節団や市民親善訪問団の派遣、また、マッカイ市青少年使節団や親善訪問団の受け入れなど、互いの市へ頻繁に訪問することで、積極的な情報交換や文化交流が図られています。

平成31年7月に姉妹都市締結から満30年という節目を迎えます。オーストラリアやマッカイ市のことを知り、交流の輪を広げていきましょう。